



ミョウガ 富樫信平画 1987.10.28 栽培品

## ミョウガ

*Zingiber mioga*

〈ショウガ科〉

日本にもともと自生するかどうかは不明だが、「魏志倭人伝」にも記載があることから、渡来であってもかなり古くから栽培されていたことがうかがえる。

夏、花が咲く前の花序をきざんで薬味などに利用する。花はクリーム色で1花序に3~4花がつく。ほとんど結実しないが、まれに目立つ赤色のさく果ができる。花のように見えるため、毎年、秋になると「ミョウガに赤い花が咲いたのですが・・・」との問合せがある。 (橋本 永)

# クリスマス展 11/11(水) - 12/25(金)

企画展示

## 今年は「森のクリスマス」

毎年、大人気のクリスマス展。今年は「森のクリスマス」をテーマに、植物をたっぷりつかってクリスマスを演出します。

クリスマスツリーでおなじみ、モミをはじめとするコニファー（針葉樹）や、クリスマスカラーのポインセチアなど、クリスマスムードを盛り上げる植物はもちろん、木の実やつるなど、森の中にある素材もふんだんにつかって会場を装飾します。

23、24、25日の3日間は、温室の開館時間を延長（18:30閉館）。昼間とは表情を変える温室で、クリスマスをお過ごしいただけます。23日の夕方には、昨年大好評をいただいたゴスペルグループ「Bro. taisuke Gospel Choir」（ブラザータイスケ・ゴスペルクワイヤー）のミニコンサートも企画しています。輝く温室に響く歌声をお聴き逃しなく!! ご家族、お友だちと、心和む自然いっぱいのクリスマス展をお楽しみください。



企画展示

## ニューイヤー・フラワーショー アザレア 2010

平成22年 1/4(月) - 2/7(日)

外は冬真っ只中でも植物園は華やかな雰囲気の中、新年を迎えます。例年2月に開催していたアザレア展が、ニューイヤー・フラワーショーとしてより魅力的になって年明け早々に開催されます。これを皮切りに、ラン展、チューリップ展と植物園では花の祭典が続きます。

当園では180品種を超える日本一のアザレアコレクションを保有しています。それらをいっせいに咲かせてお披露目するのがこの展示会です。例年、アザレア展は多くの方から好評いただいておりますが、さらに華やかで豪華にアザレアの花を堪能していただけます。新潟の特産であるアザレアの魅力だけではなく、新潟での改良や栽培の歴史も知ることができます。

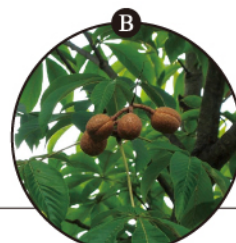
新年は4日の月曜日から開館しますので、皆様お誘いあわせのうえぜひご来園ください。

### 園内ウォッチング 園地

#### どの花が、どの実?

秋が深まると、植物は色とりどりの果実を実らせ、落葉樹は紅葉し、落葉期を迎えます。それぞれの植物が姿を変えると、園内の風景も変わってきます。

春の花の季節、夏の緑、秋の実り…。四季を通じて、一つの植物の変化を観察してみるとおもしろいですよ。どの花がどの実をつけるのか、つないでみてください。（林 寛子）



こたえ: 1. ナツハゼの花 2. ツノハシバミの花 3. トチノキの花 4. コムラサキの花  
A. ツノハシバミの実 B. トチノキの実 C. ナツハゼの実 D. コムラサキの実





ハナキリン:ポインセチアと同属であるが、多肉質で同属とは思えない姿。ポインセチア同様赤く色づいている苞葉の中心に小さな花が集まって咲く。



クロトン'アケボノ'(Codiaeum variegatum var. pictum 'Akebono')葉の模様が多様に変化した多くの品種が作り出されている。ドームには本品種のほか5品種が植栽されている。



ベニヒモノキ:ネコのしっぽのような花序。花序は長さ30~40cmにもなり、小さな花が密につく。



ポインセチア(Euphorbia cv.):年末クリスマスシーズンに登場する代表的な植物。赤く色づいているのは花ではなく葉(苞葉)。

園内ウォッチング  
温室

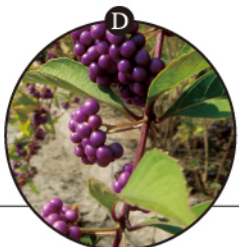
## 多種多様 トウダイグサ科の植物

トウダイグサ科の植物は世界に約300属8,000種あり、クリスマスシーズンにかけて店先などでよく飾られるポインセチアや、サボテンのような多肉質のものまで多種多様です。熱帯ドームにも、ポインセチアと同じトウダイグサ属なのにあまり似ていない多肉質でサボテンのようなハナキリン(*Euphorbia milii* var. *splendens*)、色鮮やかな葉をもつクロトン(*Codiaeum variegatum*)、赤いひものような花序をたらしめているベニヒモノキ(*Acalypha hispida*)など21種類が植栽されています。

クロトンには葉に黄色や赤色の斑点が入るものや、葉の幅が広いものや狭いものなど100~200品種以上の園芸品種があるといわれていますが、全て1種からの枝変わり(突然変異)でつくりだされたものです。ドームには、6品種のクロトンが植栽されています。

この科の植物は茎などの切り口から乳液(白い液)を分泌する種が多く、パラゴムノキ(*Havea brasiliensis*)もの切り口から出る乳液が、名のおりゴムの原料として利用されます。

(橋本 永)







ソーセージノキの開花の様子。日没頃からおよそ2時間で開花する。ガの仲間やコウモリなど夜に活動する動物により花粉が運ばれる。



左：ソーセージノキの花。中央に突き出た、二股に分かれた柱頭が雌しべ。先端に花粉がつくと数秒で閉じる。  
右：ソーセージノキの実。8月末に長さが30cm程度まで生長した。

## NEWS 1

### ソーセージノキが初開花! (*Kigelia pinnata*)

当園開園以来はじめてソーセージノキが開花しました。6月上旬に花序が伸びているのを発見し、6月30日の夜に一つ目の花が咲きました。

ソーセージノキは、アフリカ大陸南東部モザンビーク地方原産のノウゼンカズラ科の高木です。名前のとおり、ソーセージのような形の実をつけるのが特徴で、現地では長いもので1mにもなるそうです。8月上旬まで次々花を咲かせ、現在は大きいもので長さ30cmほどに生長しています。

ソーセージノキは、同じ木の花の間で受粉が行われても、実をつけない性質(自家不和合性)があるため、植物ホルモンを使って結実させます。兵庫県のフラワーパークに結実させる方法をお聞きして、開花の翌朝に人工授粉を行い、翌々日に植物ホルモンを施用したところ、見事結実し、現在に至っています。植物ホルモンを施用しなかったものは、やはり結実せず、植物ホルモンの効果を改めて思い知りました。当園のソーセージがどのくらい大きくなってくれるか楽しみです。(橋本 永)



ミズアオイの花



大きく育った木戸小学校のミズアオイ

## NEWS 2

### 「ミズアオイを守ろう」 小学校への出前授業

6月18日～25日に新潟市立木戸小学校、東中野山小学校、大形小学校、桃山小学校で絶滅危惧種のミズアオイ(環境省 準絶滅危惧・新潟県 II類)に関する出前授業を行いました。これは新潟市東区の特色ある区づくり事業「ミズアオイ植栽事業」の一環として行われたもので、同区の海老ヶ瀬地区の農業廃水路に2004年から出現したミズアオイをつうじて、絶滅が懸念される身近な植物の現状や減少の原因、人間の生活への影響を学習するものです。

1時限目には講義、2時限目には近隣の農家で育てた幼苗のプランターへの植栽実習を行いました。クイズや実習を交えた授業は子供にも楽しかったようで、育て方や植物が減少したときの人間の生活への影響、どうやって絶滅危惧種を守るかもなどの質問もあり、活気にあふれていました。これらのミズアオイは開花後に、解説パネルとともに新潟空港や東区役所などに展示されます。

エコ(ロジー)が社会的に重要度を増している現在、身近な生物を知ること地球の環境を考える子供の教育は非常に重要だと思われます。これからも植物園では学校、生涯学習に協力していく予定ですので、総合学習等での出前講座や園内の学習利用を是非ご検討ください。(倉重祐二)





## NEWS 3

### 新潟薬科大学との 連携による教室開催

8月1日、22日の2日にわたり、県立植物園と同じ新潟市秋葉区内にある新潟薬科大学附属薬用植物園との連携企画「身近な植物の力を感じよう」を行いました。

第1回の午前は、植物園周辺の野山で観察会と植物採集を行いました。観察会では、薬科大学附属薬用植物園園長の白崎先生から、有用植物を中心に解説していただきました。午後からは薬科大学に会場を移し、植物を標本にするための押し葉作業と、薬科大学の関谷先生の指導でクズの生葉(葛根)に含まれる成分を分離する実験をしました。薬品や器具を使っての実験では「理科の授業みたい」との声も。

3週間後の第2回には、第1回で採集し乾燥させた植物を標本台紙にはり、標本にした植物にどんな特徴があるか、何の役に立つかなどの情報をまとめる作業を行いました。白崎先生からは、貴重な資料となる標本作製することの意義についてのお話をいただきました。

参加者は、観察から標本作製を通して行うことで、さらに植物に対する興味が高まったようです。植物園では、今後もこのような教室を継続して行っていきたいと考えていますので、興味のある方はぜひご参加ください。(林 寛子)



観察会の様子



大学の実験室での貴重な体験(クズの有用成分の実験)



標本作製

植え付けが終わってプランターに  
水をためる(大形小学校)



左:桃山小学校での講義。クイズでエキサイティング! 右:東中野山小学校での植栽実習



## NEWS 4

### 秋のいけばな展

平成21年10月3日(土)・4日(日)

今年も新津華道連盟によるいけばな展が開催されました。新津華道連盟は生け花の普及と地域文化の向上を目的とし、昭和28年に設立された歴史のある団体です。

生け花は日本を代表する伝統文化の一つで、花卉園芸の発達とも密接にかかわりながら池坊をはじめ多くの流派が誕生し、また新しい型が生まれるなど時代とともに変化してきました。

今回は、池坊、龍生派、草月流、小原流、古流、松生派の六派から、80を超える作品が展示されました。各流派の個性あふれる作品を一同に会して鑑賞できるまたとない機会となり、多くのお客様でにぎわいました。古典的な作品から斬新なものなどそれぞれの違いが見え、また自分好みの生け花も見つかったのではないのでしょうか。そのほか、植物園の珍しい植物を使った龍生派、小原流、古流、松生派の各流派による大作も登場し、ダイナミックに活けられた作品も展示されました。(永井 明子)





## 新潟の植物

### ミゾソバ

*Polygonum thunbergii*

タデ科

田のあぜや水辺など、やや湿ったところに群生する高さ0.3m～1mのタデ科の一年草。茎には下向きの刺があり、素手で採取しようとするとき痛い目にあうことがある。葉の形が牛の顔を思い起こさせることから別名をウシノヒタイという。

30年ほど前には田の排水路などに生えるたいへん身近な植物であったが、新潟市周辺では、パイプ灌溉施設の普及で乾田化が進んだためか、除草剤に弱いのか、いつの間にか見られなくなった草である。同じタデ科のミチヤナギ (*Polygonum aviculare*) も同じように農道から姿を消した草である。前に身近な植物として展示しようと思い、近くの農道を探し回ったが、とうとう見つけることができなかった。ミゾソバを探すなら10月上旬頃に湖沼の周囲、河川の水際、大きな排水路などに行く良い。ピンク色の優しい花を付けた群落を見つけていることができるだろう。

(田中 良明)



樹冠からは木漏れ日がさしこむ

## 新潟の天然記念物

### 高森の大ケヤキ

新潟市北区高森の稲荷神社が鎮座する薬師山という小高い丘に、大ケヤキがそびえたっています。遠くから見ると水田に囲まれた小さな森のような風景です。

昭和31年3月23日に新潟県の天然記念物に指定されました。推定樹齢1,200年、目通り幹径10m、根周りは12mもある堂々たる姿。20mもの高さがあり、周囲に大きな緑陰をつくる青々とした葉が茂っています。樹勢の衰えが見られたため、平成7年から3年をかけて治療が施されました。現在は何本もの支柱で支えられてはいるものの、衰弱した状態にあったとはみじんも感じられない力強さがあります。様々な環境の変化をうけながらも1,200年前の平安の昔からこれまで生き抜いてきた生命力の賜物でしょうか。

多くの老木が各地に存在していますが、それらの樹木は時代の移り変わりをどのように見てきたのか、そんな思いが頭をよぎりました。

(永井 明子)



高森の大ケヤキ





## 友の会通信

今年度も「春の植物観察会」、「湯沢植物観察会」、「植物園まつり出店」と皆さんの協力でいろいろな活動をすすめています。

9月下旬から10月中旬に、観賞温室第3室で春の植物観察会と湯沢植物観察会で見つけた植物、観察会の様子をまとめて展示する予定です。観察会に参加された方も参加できなかった方も、まだまだ会員でない方も楽しめるような展示にしたいと思います。

### 春の植物観察会 観察した植物は約200種！

6月20日、21日の1泊2日で石沢会長のご案内で、新潟県との県境の長野県栄村方面での植物観察会をおこないました。1日目は栄村植物園で園内の植物観察、その後、宿泊する村内の「のよさの里」へ向かう途中でチドリノキ、オヒョウなどを観察し、宿で荷物を降ろした後、天池周辺を散策しました。

2日目の朝、小雨が降っていましたが、観察には支障がなく、風穴の周辺に生育している植物を観察しました。その後、鳥甲山のまだ雪が残るあたりまで散策しながら、観察を行いました。2日間で約200種の植物を見ることができ、大変充実した植物観察会となりました。以下は参加者のレポートです。



のよさの里で鳥甲山をバックに、2日目朝から小雨が降っていたが、鳥甲山の山腹の目的地についたときは、雨は上がり青空が広がっていた。

●石沢先生が栄村に開かれた「栄村植物園」に感動した。20万分の1の栄村の縮図が園内につくられ、それぞれの地区に特徴的な植物が移植されていて、来園者は、その場で栄村の植物に出会えるようになっていた。春の植物は緑色、夏は青色、秋は橙色の案内板で解説され、わかりやすかった。ノアザミ、ナンブアザミ、サワアザミ、ノハラアザミの4種が1ヵ所に植えられていて、その場でそれぞれのアザミを比較できるように配慮されていたのは、とてもうれしいことだった。石沢先生は、絶滅が心配される種をはじめとしていろいろな植物を移植されたり、実から育てておられ、その石沢先生に強力な協力者が現れていた。それは野鳥や風である。一角に、野鳥や風によって芽生えたとと思われるバッコヤナギ、リョウブ、オオキツネヤナギ、ヨグソミネバリ、ウダイカンバ、ネジキ、シロヤナギ、シラカンバ、ユキグニミツバツツジなどが1mほどの高さにたくましく成長していた。

チドリノキは種子から育てて3年目で高さ1mくらいだった。石沢先生は「なかなか大きくなってくれませんが」と話された。ジシバリとノニガナの交雑種の「ノジシバリ」を紹介してもらった。石沢先生が栄村で発見されたので、栄村にちなんで命名されるとのこと。栄村の名が学名となって残るなんて、すばらしいことだ。今は開園されたばかりだが、栄村植物園の5年後、10年後がとても楽しみだ。毎年でも訪れたい。石沢先生が後世にのこされる大事業——日本の宝、いや地球の宝になると思った。

●楽しい二日間あっという間にすぎてしまいました。今迄幾度も教えていただいてもまだまだ覚えられませんが、でもまた新鮮な思いでながめています(カエデ類、カバノキ類、カヤツリグサ、シダ等々)。初めてのものも多々有り、特にユキワリソウはうれしかったですね。風穴の涼しさも秋をより一層感じました。



ユキワリソウ(サクラソウ属・*Primula modesta*)。鳥甲山の残雪が残る付近で1個体だけあり、花を咲かせていた。



ヒロハツリバナ(*Euonymus macropterus*)2日目鳥甲山へ向かう途中の風穴付近で。

#### ●今回の観察会で印象に残った植物

- ①フジキの白い花：石沢先生が採集してきてくださったもの。このあたりが北限とか。何年かおきに咲くとのこと。
- ②レンプクソウ：残念ながら花はみられなかったが、私にとって初めての植物だったので。
- ③風穴付近の満開の花たち：オガラバナ、ヒロハツリバナ、コミネカエデ、ミヤマタタビそれぞれが今を盛りと咲き誇っていた。
- ④サロンパスのにおいのするヨグソミネバリ——これも私は初体験だった。
- ⑤鳥甲山散策で出会った花たち：オオバミゾホオズキ、ヤマガラシ、イワハタザオ、ウメバチソウ、タチカメバソウ、サンカヨウ、ユキワリソウ(サクラソウ科)
- ⑥ミヤマザクラ：果柄の基部に葉状の苞がついているなんてびっくりした。

### 友の会ブログ 開設しました！

新潟県立植物園 友の会のブログページを開設しました。

会の最新の情報、会員のつぶやき、発見などどんどん更新していきたいと思えます。

会員の皆さんの投稿をお待ちしています。

情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL [http://blogs.yahoo.co.jp/bgn\\_tomonokai](http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai)

### 今年度 今後の計画

キノコ観察会 10月18日(日)

小池先生の案内で、秋葉区の大沢公園周辺を散策後、キノコ汁で秋の味覚を満喫します。

クリスマス交流会 12月23日(祝)

賛助会員 (わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています)敬称略

- 齋藤圭子 ●藤田秀雄 ●小林測量株式会社新発田支店 ●株式会社アート ●株式会社原常樹園  
●有限会社丹環境計画 ●株式会社アート環境設計



展示

観賞温室第2室 企画展示

- 11月8日(日)まで 「古今東西 植物ものがたり」
- 11月11日(水)～12月25日(金) 「クリスマス展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 10月20日(火)～11月8日(日) 「里山～景と花～」  
出展:小国生物友の会
- 11月11日(水)～29日(日) 「ハーブクラフトアラカルト」  
出展:ジャパンハーブソサエティ新潟支部
- 12月1日(火)～12月13日(日) 「楽しいクリスマス」
- 12月15日(火)～12月25日(金) 「ドライフラワー作品展」  
出展:フラスワースクールはな舞

観賞温室第3室 特別展示

- 10月12日(月・祝)まで 「2009県立都市公園・まちなか緑花写真コンテスト受賞作品展示」
- 10月6日(火)～11月8日(日) 「大文字草展」

イベント

- クリスマス開館延長  
12月23日(水・祝)・24日(木)・25日(金)  
18:30閉館(最終入館18:00)
- クリスマスミニコンサート  
12月23日(水・祝) 17:00～18:00  
出演:Bro. taisuke Gospel Choir

教室

花と緑の教室 会場(または集合場所):花と緑の情報センター  
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 10月11日(日) 10:00～11:30 ●「秋を楽しむ～大文字草の寄せうえ～」  
講師:首藤 洋(有限会社石塚萬花園) 定員:20名 参加費:500円
- 10月18日(日) 10:00～11:30 ●「バラの育て方② 秋・冬の管理」  
講師:佐藤 七郎(新潟ばら会副会長) 定員:30名 参加費:無料
- 11月1日(日) 10:00～11:30 ●「木の実で工作」  
講師:林 寛子(植物園職員) 定員:15名 参加費:無料
- 12月5日(土)・6日(日) 10:00～11:30 ●「クリスマスのリース作り」  
講師:林寛子・永井明子(植物園職員) 定員:15名 参加費:1,000円
- 12月13日(日) 10:00～12:00 ●「正月飾り」  
講師:片山 芳宣(植物園専門相談員) 定員:20名 参加費:500円

●わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。

- ①10:40～ ②14:40～  
(土・日・祝日は13:40からも実施)  
当日温室発券カウンターにて受付・定員制

また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみになりたい方には、携帯音楽プレーヤーiPodを使った展示解説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の入館券売場でプレーヤーを貸し出ししていますので、ぜひ一度お試しください。(無料・身分証明書必要)



●花と緑の相談コーナー

専門相談員の片山芳宣先生がわかりやすくお答えします。  
●相談受付日:毎週水曜、日曜  
ご相談は直接相談コーナーへ。電話でも受け付けています。  
専用電話:0250-24-6437

図書のご案内

※温室入館券売場で販売しています。



「里山の植物」  
2,000円  
新潟丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を見つめ直し。



「ようこそ緑の夢王国 新潟県立植物園」  
1,200円  
新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しむきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

友の会会員を常時募集しておりますので、興味のある方は植物園までお問合せ下さい。

新潟県立植物園 友の会  
会員募集

会員特典  
年会費

- 観賞温室入館料無料(個人会員、ファミリー会員)
- 観賞温室無料入館券10枚(賛助会員)
- 植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加
- 個人会員..... 2,000円
- ファミリー会員(同居の家族は何人でもご利用できます).... 2,500円
- 賛助会員 一口..... 10,000円

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)  
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円  
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 ・ ・ ・ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 ・ ・ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

※新年は1月4日(月)から開館します。

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分  
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分  
JR/信越線古津駅から徒歩約20分  
バス/区バス:新潟駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分  
新潟交通:新潟駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き  
「新潟美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地  
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410  
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp  
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/  
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター

ISO 14001  
JAC  
MS  
JAB  
CM21  
登録範囲は、事務局、養蚕寺記念公園事務所、鳥屋野湯スポーツ公園事務所、植物園です。  
PRINTED WITH SOY INK  
大豆インクで印刷しています。